



巻頭言

「つながり」を求める時代に寄せて



あなたは今、だれかと「つながり」がありますか。そして、その実感はありますか。

何事にも「独り」には限界があります。その時必要なのは「仲間」です。仲間と一緒に何かを考え、何かを行動することは難しいことでもあります。楽しみを一緒に喜び、苦しみを一緒に悩むという「分かち合い」は、独りならば押し潰されそうなことでも何とか乗り越えられる原動力となります。また、自分以外の人たちとの関係性の中から自分の立ち位置や役割を得て、社会の中における自分の存在意義を見出していきます。

しかし、現在は、そのような「つながり」もなく彷徨っている「孤軍奮闘・孤立無援」の人たちがあまりにも多すぎます。職場においては隣の席同士でメールを交換して会話がな、地域においては隣近所で挨拶がない、家庭においても共働きや塾通いの子どもたちがバラバラで「家族カレンダー」なるものが^{かすがい}錆になっている、といった現象は日常的になってきています。まさに個人で立ちながら周囲との縁が切れている「個立無縁」の状態なのです。

そのような中、今ほど互いに「つながり」を渴望している時代はないのではないのでしょうか。インターネットは普及してもみなさんが「わざわざ集まる場」をむしろ増やそうとしているように感じているのは私だけでしょうか。

私たちが今、心底知っておきたいのは、人と人とのつながりの必要性和重要性です。人は、人とつながってさえいればどんな山奥の高齢者も寂しさもなく元気に暮らせますが、つながりがなければ都心に暮らす人たちも孤独な最後を遂げるかもしれません。「限界集落」という言葉は決して中山間地や離島・半島といった田舎の言葉ではなく、人とつながりが切れた瞬間に、都心にもベッドタウンにも職場にも家庭にも間違いなく出現するのです。

私たちはこの2年間、こぞって地域の子育てを学び、考え、行動し、「わざわざ集まる意味」を噛み締めてきました。そして、お互いが知り合い、対話し、理解しあう中から、家庭のみならず地域や職場においても、そのコミュニティを創りあげていくことの大切さを知りました。コミュニティの本来の意味は「共に重荷を担い合う」ということ。分かち合うことで皆、元気に過ごしていきたいものです。そう、地域と個人には「元気」が一番なのです。



まもなく春。

人々が集いつながり元気になる、桜咲く季節はもう目の前です。

2008年春、桜花開かんとする福岡にて
加留部貴行

(2007年度子育て支援活動メンバーのための活動スキルアップ講座第5回ファシリテーター)

2006年度・2007年度子育て支援活動メンバーのための活動スキルアップ講座まとめ	
巻頭言	1
目次	2
2006年度活動サポート講座	3
「子育て情報の共有と発信」	
2006年度活動スキルアップ講座第1回	7
「ITをつかって活動をPRしよう」	
2006年度活動スキルアップ講座第2回	12
「参加者集めのためのチラシづくり」	
2006年度活動スキルアップ講座第3回	16
「活動紹介のためのプレゼンスキル」	
2006年度活動スキルアップ講座第4回	18
「報告書のまとめ方」	
2007年度活動スキルアップ講座第1回	20
「先例から学ぶ子育てネットワークの展開」	
2007年度活動スキルアップ講座第2回	26
「NPOによる子育て応援プログラムを知ろう」	
2007年度活動スキルアップ講座第3回	28
「活動資金や協賛の獲得方法」	
2007年度活動スキルアップ講座第4回	32
「意見が出しやすくなるミーティングの工夫」	
2007年度活動スキルアップ講座第5回	36
「子育て相互支援活動からめざす“地域創り”～活動の評価をしよう～」	



明治学院大学社会学部附属研究所では、2006年度から2007年度にかけて、「子育て支援活動メンバーのための活動スキルアップ講座」（2006年度初回のみ「活動サポート講座」）を開催しました。2006年度の活動スキルアップ講座第1回～第4回は、港区立子ども家庭支援センターとの共催でした。

当研究所が、子育て支援活動メンバーと出会い始めたのは、2004年度から2005年度にかけてです。「都心での子育て環境をよくしたい！」という活動者との出会いがきっかけとなり、港区内で活動している方々との出会いを求め、いくつもの子育てグループの皆さんと知り合うことができました。それぞれが、「いろいろな人との関わり合いの中で子どもを育てたい」と考え、出かけにくい孤立しがちな親子を心配していました。親子で集まれる小さな広場や母親向け講座などの活動を、懸命に、ほぼ手弁当で運営しているグループばかりでした（一部のグループは、港区社会福祉協議会の『子育てサロン』助成を受けています）。

さまざまな子育てグループ活動者とのつきあいの中で、課題と感じていることや「もっとこうしたい」と思っているけれどうまくいかないでいること、などが伝わってきました。そうした子育てグループ活動者との対話の中から、活動スキルアップ講座のテーマを選んでいきました。

講師・ファシリテーター・スピーカー等には、これまで当研究所の実践活動を通して築かせてもらったネットワークをフル活用し、それぞれの領域や地域において、第一線でご活躍の皆さまにご協力いただきました。この場を借りまして、ご協力にあらためて感謝いたします。

こうして開催できました活動スキルアップ講座の内容を、ご参加いただけなかった方々にも、そのエッセンスを届けたいと考え、講座のまとめを作成しました。皆さまにご覧いただければ幸いです。

2008年3月吉日（明治学院大学社会学部附属研究所ソーシャルワーカー平野幸子）

2006年度 活動サポート講座
 「子育て情報の共有と発信～身近なツールの上手な活用～」
 2006年6月1日（木）10:30～12:30
 講師：川森茂樹氏（株式会社NTTデータ システム科学研究所）

子育て情報の共有と発信 ①相手

「知りたい、伝えたい、集めたい」とは？

- ・ 情報には「相手」がいる！
 - 「伝えたい！」には、伝えたい「相手」がいる。
 - 伝える「相手」によって、手段を使い分けよう。～ まずは身近なところから～

- ①伝えたい「相手」はどんな人？
- ②その人はどこにいる？

その人を知っている人を探して...	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介してもらう。 ・ 報せてもらう。
こちらから...	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話しかけてみる。 ・ いろいろなイベントに参加する。 ・ いろいろなイベントをやってみる。
その人に...	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来てもらう。 <p>⇒ 「来てもらうために...」</p>

来てもらうために...

来てもらうために...	<p>グループがあることを知ってもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡先をつくる。 ・ グループ紹介の紙をつくる。 ・ 掲示板や回覧板にのせてもらう。 ・ 広報誌に載せてもらう。 ・ 定期的集まる場所を持つ。 ・ ひょっとして、「口コミ」が一番かも。 ・ 目立つように活動する。
	<p>もっと広く知ってもらう(ひょっとして日本中に?)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページを立ち上げる。 ・ 連絡用のメールアドレスを公開する。 ・ 新聞に載せる。 ・ 有名人になる☆
	<p>参加しやすい雰囲気をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いっしょにどう?」と、メンバーから声をかける。 ・ 友達と一緒に参加できるようにする。

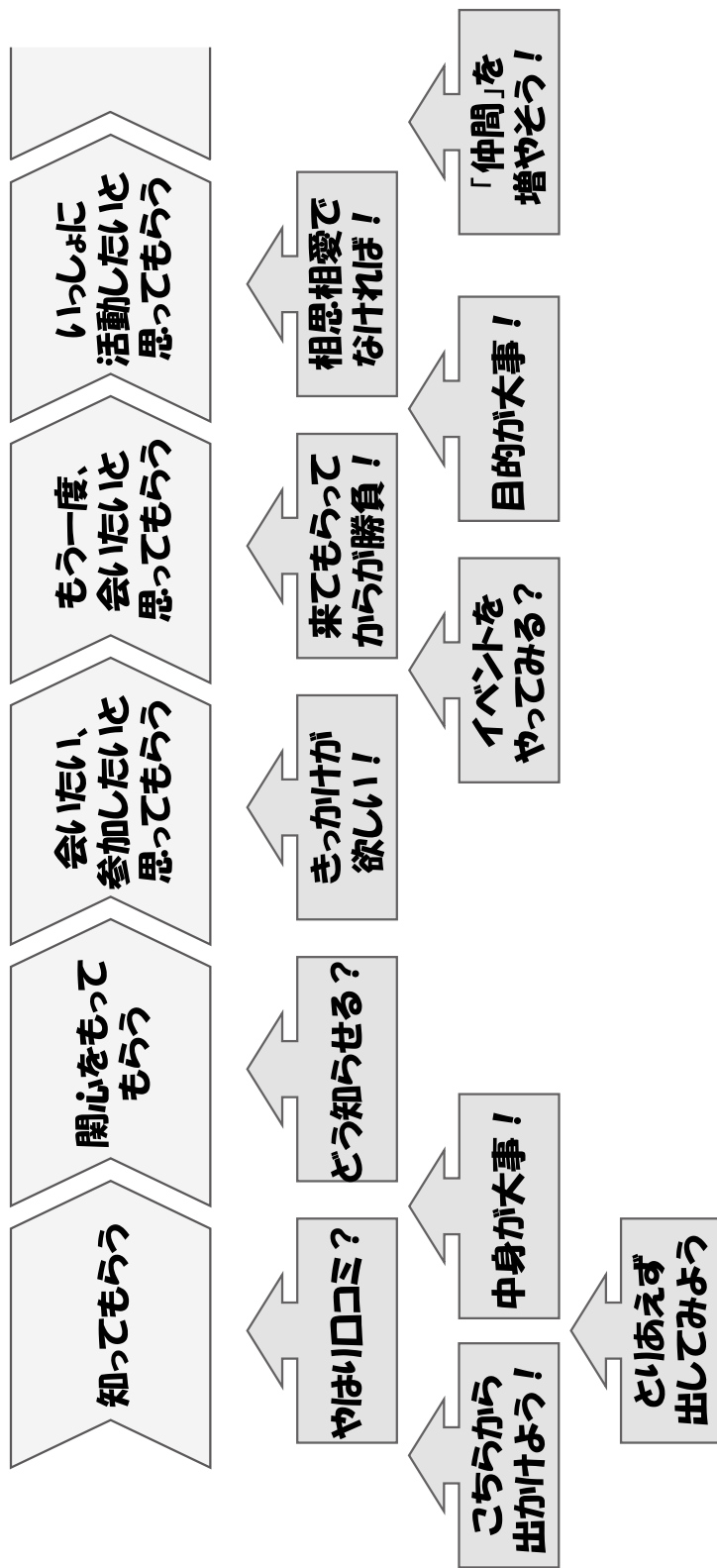
手段の一覧

手段	長所	短所
紹介してもらおう	<ul style="list-style-type: none"> ・確実に伝わる。 ・信頼してもらえらる(その人次第)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られる。
話しかけてみる	<ul style="list-style-type: none"> ・知り合いになれる。 ・その人に合わせて話しかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られる。 ・勇気がいる(無視されるかも...)
イベントに参加する イベントをやってみる	<ul style="list-style-type: none"> ・きっかけになる。 ・知らない人にも来てもらえる(かも)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られる。 ・やるのは大変
掲示板や回覧板にのせる 広報誌にのせる	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない人に伝えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人だけ。 ・関心がある人だけ。
定期的に集まる	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ、どこにいけば連絡できるかわかる。 ・参加しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所探しが大変。 ・メンバーが大変。
口コミ	<ul style="list-style-type: none"> ・影響力大! 	<ul style="list-style-type: none"> ・良くも悪くも、影響力大... ・思ったとおりにはいかない!
ホームページをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも、どこでも伝えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくるのが大変。 ・見られない人には見られない。
新聞に載せる	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に伝えられる。 ・信頼される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金がかかる(広告)。 ・取り上げられるまでが大変。
有名人になる☆	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼される。 ・勝手に集まってくる! 	<ul style="list-style-type: none"> ・有名になるまでが大変(なれるかな...)

子育て情報の共有と発信

- 続けることが大事
 - 知ること、伝えることは、きっかけ。「その後」が大事

たとえば、



子育て情報の共有と発信 ②目的

- ・ 情報には「目的」がいる！
 - 伝えるのは、きっかけ。「やりたいこと」を考えよう。

たとえば...

- ・ 友達になる。
- ・ 活動に関心を持ってもらう。
- ・ もう一度、来てもらう。
- ・ 仲間になる。
- ・ 一緒に活動する。
- ・ …

➡ 「やりたいことリスト」をつくってみましょう！

(ワーク1) 「やりたいことリスト」をつくろう！

何を知りたい？	何を伝えたい？	何を(誰を)集めたい？

子育て情報の共有と発信 ③手段

- ・ 伝える「相手」によって、手段を使い分けよう！
 - 近くにいる人？ 遠くにいる人？
 - 知っている人？ 知らない人？
 - ひとり？ たくさん？

➡ 「はじめの一步」を見つけましょう！

(ワーク2) 「はじめの一步」を見つけよう！

やりたいこと(ワーク1のまとめ)	手段	はじめの一步(どうする?)
	紹介してもらう	
	話しかけてみる	
	イベントに参加する イベントをやってみる	
	掲示板や回答板にのせる 広報誌にのせる 定期的集まる	
	口コミ	
	ホームページをつくる	
	新聞に載せる	
	有名人になる☆	
	メールアドレスを交換する メーリングリストをつくる	

2006年度活動スキルアップ講座第1回「ITをつかって活動をPRしよう ～ブログをつくろう～」

2006年10月20日（金）10:30～13:00

講師：川森茂樹氏，山田祐介氏（株式会社NTTデータ システム科学研究所）

◆ 川森茂樹氏プロフィール：

1969年、三重県四日市市生まれ。

三重大学工学部卒業後、現、株式会社NTTデータに入社。福祉情報システムの企画・開発に携わる。以後、福祉情報化に関心を持ち、仕事を続けながら、立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科に進む（社会福祉学修士）。現在、技術開発本部・システム科学研究所にて、高齢者医療法の施行に向けて研究中…。

◆ 山田祐介氏プロフィール：

2003年、NTTデータに入社。

3年間、ITを活用した市民参加の研究を行い、行政やNPO等、地域で活動している方たちと触れ合う機会があり、地域社会に関心を持つようになった。

現在は働く場所や働き方に関する研究を行っている。また、私生活でも、結婚し、地域活動や街づくりには現在も興味がある。

ITを使って活動をPR

• **インターネットを使うと...**

- 簡単に情報が得られる
 - ・ 検索サイト(Google, Yahoo!)でキーワード検索、「東京都 港区 子育て」で検索すると、なんと33万件
- 簡単に情報が発信できる
 - ・ ホームページを簡単に作ることができる(かつ、無料で)

• **ホームページを使って活動をPR**

- ホームページを作ったのだから、見てもらいたい ...検索エンジン(Google等)
 - ・ 検索サイトが、インターネットにあるホームページを集めて検索の対象としている
 - ・ ホームページを作ったとしても、検索サイトから見つけてもらえないと、検索の対象にならない
 - ・ 検索キーワードをいくら入れても出てこない...「孤島」になってしまう
- ⇒ 検索対象となっているホームページからリンクを張ってもらう

• **活動をPRする基本**

- 伝えたいこと、伝えたい相手をはっきりさせる（まずは、わかりやすいタイトルから）
- たとえば「仲間になりたいな」と思ってもらうためには、どのように発信すればよいか

ホームページを作ろう

【ホームページの作り方】

①デザイナー・技術者に依頼する

- ・ ホームページを作るには、「〇〇.HTML」といったファイルを用意する必要がある
- ・ きれいなホームページにするためには、プロのデザイナーに頼むことが必要
- ・ インターネットに作ったファイル(HTML等)を置く必要がある
- ・ 技術用語が多くでてきて、わからなくなってしまう。技術者(詳しい人)に頼むことが必要

②自分たちで勉強する

- ・ ファイルを自分たちで用意する。最近のワープロなら、保存すればHTMLになる
- ・ きれいなホームページにするために、みんなで協力する
たとえば、コンピュータで絵を描く担当、文章を書く担当、コンピュータに詳しくなる担当...
- ・ インターネットに作ったファイルを置く方法を勉強する、試しにやってみる

③ブログ(Blog)を使う

- ・ 無料、かつ、いろいろ勉強しなくても何とかなる
- ・ ホームページのデザインは、テンプレート(デザイン)から選べばよい
- ・ 今日からでもできる ⇒ やってみよう

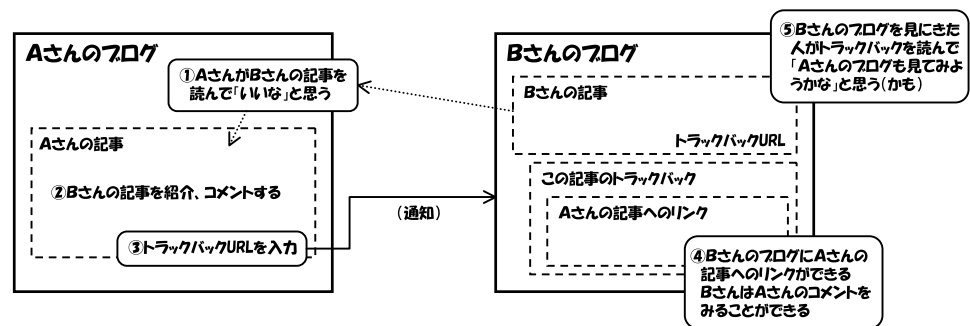
【整理】ホームページの作り方の違い

作り方	メリット	デメリット
①デザイナー・技術者に依頼する	<ul style="list-style-type: none"> ・ きれいなホームページができる ・ わからないところは任せられる ・ 「ちゃんとしたホームページ感」がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お金がかかる ・ 更新したくても自分たちではできない(かもしれない)
きれいにできる。けれど、お金がかかる		
②自分たちで勉強する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思ったとおりのものを作れる ・ 工夫して作り上げていくことができる ・ 「手作り感」がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強するだけで大変 活動のPRどころじゃない(本末転倒) ・ 勉強したメンバーがいなくなると、どうしようにもなくなる ・ お金がかかる、時間がかかる、手間がかかる ・ 更新が面倒になりがち ・ なんとなく「素人」っぽい(事実だけれど...)
思ったとおりのものができる。けれど、大変		
③ブログ(Blog)を使う	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラウザや携帯電話さえあれば、簡単に更新できる ・ 更新すれば、ブログのポータルサイト(玄関)に載る(宣伝になる) ・ 「気軽に発信、見てもらえる感」がある ・ 無料(有料サービスもある) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービスとして用意されていることしかできない(無料版) →たとえば、写真は掲載できるけれども、ワードの文書ファイルは掲載できない →テンプレートにないデザインにしたいくても、簡単にはできない
簡単、早い、きれい。けれど、できることに限りがある		

見てもらえるブログにする

【ブログを使って活動をPR】

- ブログは、検索エンジンがしてくれる、「孤島」にはならない
 - ブログによっては、検索機能が充実。ブログのポータルサイト(玄関)から見つけてもらえる
- 更新すると、ブログのポータルサイト(玄関)に載る
 - とにかく更新する ⇒ 「ブログ新着記事一覧」に載る ⇒ 見に来てくれる人が増える ⇒ 人気サイト!
 - 更新をやめないこと
- コメントする、トラックバックする
 - こちらからもコメントをつけにいく、トラックバックする ⇒ ブログをPRすることになる



ワーク「ブログを作ろう」

• ブログの作り方

- まずは、ブログのサービスを提供しているところを選ぶ
 - goo(NTTレゾナント)、livedoor(ライブドア)等
 - 少し怪しげなところもあるので注意(新着記事をいくつかみて確かめる)
- 「ブログの始め方」のページをよく読む
 - gooの「ブログとは」が親切

• ワーク「ブログを作ろう」の進め方

- ① ブログの始め方を読む(goo)
- ② ブログに掲載することを書き出す ⇒ 次のページ
 - ブログのタイトル、概要等
 - カテゴリー
 - 最初に掲載する記事
- ③ ユーザID(gooID)を取得する
- ④ ブログを開設する
 - テンプレート(デザイン)を選択する
 - ブログのタイトル等を入力する
- ⑤ 最初の記事を入力、掲載する

ワークシート

(タイトル)	ユーザーID
(概要)	パスワード
(初めての投稿)	カレンダー
(タイトル)	カテゴリ
(本文)	プロフィール
(右カテゴリ)	(グループ紹介)

注意事項

活動をPRするにあたって...

... インターネットで活動をPRすると、思わぬトラブルに巻き込まれることがあります

注意1 個人情報を掲載しない

- 子どもの写真や名前を載せると、親しみがわく、行ってみようかなと思ってもらえるかも
- いつも行っている場所を載せると、声をかけてみようかなと思ってもらえるかも
- けれども、誰がみているかわからない...

－ 解決策: はっきりとは書かない

注意2 悪意あるコメントがついてしまう危険がある

- 悪意あるコメントやトラックバックが...
- よくわからない英語のコメントが... 「nice site」と書いてあるけれど...

－ 解決策: 相手にしない(放置)、削除してしまう ⇒ 何かあればご連絡を

注意3 グループの活動のPRか、メンバー個人の子育て日記か、わからなくなってしまう

－ 解決策: 掲載することを決める、メンバーそれぞれがブログを立ち上げる

今後の進め方(1)

1. グループで話し合う

- ユーザID、パスワードを共有する
- 掲載するものを決める、掲載のルールを決める
たとえば、「お店に行く → 記事を書く → 確認してブログに載せる → 話し合い、修正」
- メンバーそれぞれが、得意なことを活かしてブログを盛り上げていく

2. ブログの仲間を増やす

- 港区のブログ仲間を増やす
- できるだけ相互にコメントする、トラックバックを送る
「見てますよ」が続ける元気の素になる

3. ブログを使って他のグループの活動も紹介

- メールや紙で他のグループから記事(イベント情報等)を受け取る
- ちょっとしたコメントをつけて掲載する、他のグループに掲載したことをお知らせする
たとえば、「イベントに参加してみる → 写真つきで記事を書く → ...」

! 無料のブログに飽き足らなくなってきたら ...たとえば、「ワードで作ったチラシを掲載したい」

- 有料サービスを使う
- ブログを「引越」する(別の会社ならできるかも) など

今後の進め方(2)

【ワードで作ったチラシを掲載したいなら...】

– チラシの一部を切り出して投稿し、データベース化

- そのまま掲載するのは無理そう
- 検索の対象になるためには、文字データ(記事)のほうがよい
たとえば、お店訪問情報、イベント情報といったカテゴリをつくり、コピー & ペーストで投稿！
カテゴリを地区に分けるのもいいかも...

– チラシを作るために日々投稿

- お店に訪問したら、日々、投稿する
- あとで記事をまとめてチラシにする(もちろん、チラシにてブログを紹介！)
- チラシにはできないことをブログでする
たとえば、写真付きで紹介する、コメントをつける、他のブログの記事を探してトラックバックする

2006年度活動スキルアップ講座第2回「参加者集めのためのチラシづくり」

2006年11月24日（金）10:30～12:30

講師：吉田理映子氏（市民活動情報センターハズオン！埼玉 副理事長）

～伝えることのできる人は幸せだと思ってほしい～

チラシいいのができない～と落ち込むが、そうではなく、伝えたくても伝えられない人がいる、その人たちに届けることができる幸せを思ってほしい。

○吉田さんが伝えようと思ったこと・・・

1999年9月30日東海村の臨界事故があった日。私は「ここ埼玉は大丈夫かも・・・」と思ってしまった。しかしそれから一ヶ月後、「原発は安全」と伝える広告代理店の仕事に携わっていた側としてこの事実をしっかりと見なくてはいけないと言われ、おそろおそろ出かけた。

テレビには映っていなかったが、近隣には小学校と幼稚園があった。子どもたちを通わせていたお母さんから、いっしょに「いのち」のこと知ろうよといわれた。私も子どもを育てているので、知ることを始めようと思った。いろいろなことを教えてもらった。それを伝えようと思った。

○「あー来てよかった」と思ってくれるかなーを考える

子育てサロンをする時にも、ここから広報が始まっている。

どんな壁だったら人はほっとするだろうか。どんなにおいだったら、入ってきたお母様たちがほっとするだろうかと考える。広報、チラシづくりと同じである。入った瞬間、「あー来てよかった」と思ってくれるかなーを考える。それがすべてのコミュニケーションである。

タイトルは「あの日東海村で子どもたちは」として、幼稚園でぬいぐるみのあるお部屋で、体験したお母さんが語った。チラシに原発や臨界事故とは入れなかったが、あの日どんなにこわかったかを語り始めたら、心と心がつながっていった。お母さん同士のつながりができ、そのあと、伝えたいと思う人が増えた。伝えましようとも、つながりましようともいっていない。「つながりたい」と思う仕掛けを作ることなのだ。

○広告というラブレターはその人の暮らしに入るもの

わざわざ本屋の原発コーナーへは行かない人に原発のことを伝えるには？とお母さんたちと考えた。

ラブレターはその人の暮らしに入るものだから、唐突にきても開けないが、回覧板なら見ると。「私からあなたへ～」がわかるから読もうと思う。「あなたの大事な人がいたら、こ

れをまわして、ご自分でコピーして次の方に回してください。」と書き渡した。手渡しされた手記からどんどん伝わった。「うわーこんなことがあったの?!」と心に届くと、その人は何かしたいと思わずにはいられない。その人から湧き出る自主的な行動は行政でも企業でもない。人なのだと知った。伝わる数は少ないかもしれないが、深いとわかった。私も子育ては、たいへんだった。しかしいっしょに話しましょうということを丁寧に考え関わっていくことで、今起きているいじめの問題なども少しずつかわるのではないかと思う。

○ラブレターを待っている人がいる

「市民」という立場の皆さんたちが、社会を変えることができるのだと思う。皆さんからのラブレターを待っている人がいることを、まず思ってもらいたい。だから、チラシは命がけに創るものではないか。以前、倉本聡先生からいわれたのは、「一滴の涙にかけなさい」ということだった。一滴人を動かすまでは大変だが一滴の涙で人は元気になることがある。一度、人が心を揺るがされると、あとはその人が動いていく。その人が行きたいと思ってくれる。さがしてくれる。そこまで、きゅっと変えるまでが、チラシの役割である。だからテクニックではない。

本当に伝えたいと思ったら、街を歩けばよい。なんでここでキモチが立ち止まったのかなと、気になったチラシを手に取ると、ポスターをよく見ると自分のテクニックの集積ができる。

○ラブレターを届ける相手へキモチの言葉を

例えばきょうの参加者の自己紹介、実はヒアリング、マーケティングである。各人の自己紹介で印象に残ったこと、これらは広告的要素である。好きなこと、大事に思っていることなどどんな人柄かがわかると相手を受け入れやすくなる。どんな団体かがわかると、人はその団体に興味をもつといっしょである。仲間のこの点がきっかけでひかれたわ、、、という経験がチラシに生きる。

人の話を聞くのは大切。誰かが言ったそのままの言葉をチラシに入れるのが早い。話された言葉、リアルな言葉をできるだけストックしていく。加工しない、ナマのキモチの言葉をのせるだけでも響いていく。ウソがない。市民はその言葉をリアルに聞ける。こうした言葉を、手渡しでもらえるところにいるのは、チラシをつくる上での強みである。



伝わる原理「広告」と「広報」二位一体のルール

人が伝えようとするとき、広告要素と広報的要素があれば伝わる。

さらに、伝わるだけでなく、伝わってしまうこともある。

広告の役割：買ってね、参加してね、と、行動を移してもらうこと。一方通行。

例) チラシ、看板、CM。

広報の役割：好きになってね、と伝えること。双方向。感想・意見が戻ってくるのが広報である。空気を伝えている。

例) 新聞記事、イベント、広報誌。

たったひとりのために・・・「伝える」幻想と真相・・・

社会は万能ではないので、つながれる人は狭まっている。

・ ビリヤード大作戦

たったひとりのために「あの人」に届ける。あの人に届けたその人から、あの人へ。次のその人からあの人へ、その次のその人からあの人へ。ビリヤードの玉のごとくである。

・ 助けてコミュニケーション

どうしたら来てくれるか、来てくれた人がどうだったかーをきく。いろいろな人にきくことは、「助けて」ということ。きかれた相手には、広告になる。どういうサイズがいい? など小さなことなども聞く。きかれた相手が1～2年たってこのテーマを思い出すかもしれない。市民だからきいていける「助けてコミュニケーション」である。

・ 立ち会い出産広報

簡単なことでも助けてということは広報には大切なこと。「チラシ配って」といってもやってくれないが、「配りたい」と思えばやる。どこかで1回でも関わると、「私のチラシ」になる。これが立ち会い出産広報。途中でどんどん伝えていく、きいていく、立ち会い出産していく。広報をつくる途中が大事である。



5つのDon!

1 Don! : どんな人から?

トーン（感じ）& マナー（様式）を決める。

どんな感じの団体からなのか。

形態（例 ベビーカーにすっと入るチラシにしよう、、、冷蔵庫にはってまかっこよいもの）色（最低限イメージカラーを決める、、、）90パーセント以上は、頭ではなく感じや雰囲気理解する。私たちの団体だから、つくれるチラシは何か？決めないと困ったことも起きることもある。

2 Don! : どんな人へ?

どこに住んでいて、どんな思いの、どんなことを気になったりして暮らしている人かなど、伝えたい相手のことを団体でひとり決める。まず最初に伝えたい人はだれか、心でターゲットを分析するとわかる。肉声をたよりにしていく。「～～～と思っているお母さん」「いじめが気になっている近所のおじさん」こういう言葉を探す。

3 Don! : どんな点を最初にいったらよいか? (訴求ポイント)

何を言ったらまず振り向いてくれかな～を探す。チラシはただなので見ようと思って見るのではない。ふり向いてもらうことが命。

文字要素を淡々と整理する。これらをどうデザインするか。何をはじめにいったらよいか。

4 Don! : どんなときに?

いつ言うのか。

5 Don! : どんな手段で?

手段はチラシに限らない。説明する時に使えるチラシ。おいてあったらあけてほしいチラシ。えっ!と思うまでがチラシ。あけると答えが書いてある。

◆ 吉田理映子氏プロフィール :

大学卒業後、広告代理店に勤務。企業の広告戦略の企画立案、制作実施を担当。倉本聰氏（「北の国から」の脚本家）の「広告制作参加型プロジェクト」などに携わる。

1999年東海村臨界事故をきっかけに、さいたまNPOセンター広報専門スタッフとなる。同センターでの主な仕事としては、埼玉県介護保険サポーズクラブの1000人募集広報、「埼玉つながりリスト」の編集などを手がけた。現在ハンズオン！埼玉副代表理事をはじめ様々なNPOの広告広報活動及び企業の社会貢献活動の企画に取り組んでいる。子ども、介護、虐待、環境・・・などなどの分野で、ひとりの困ったをみんなの困ったにするためのコミュニケーションを企画、制作、失敗、再生・・・を繰り返している。

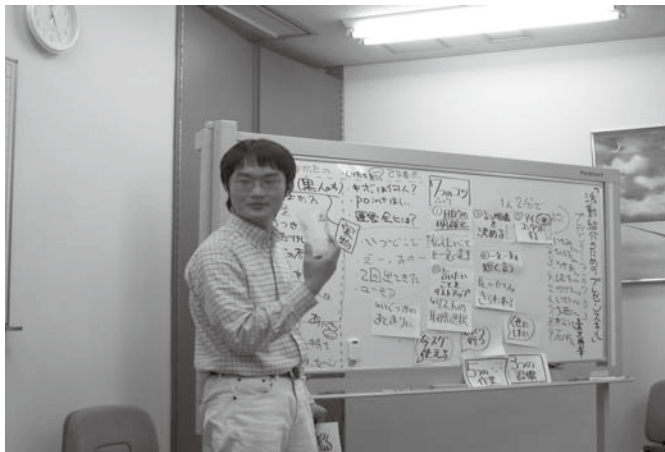
2006年度活動スキルアップ講座第3回「活動紹介のためのプレゼンスキル」

2006年12月1日（金）10:30～12:30

講師：青木将幸氏（青木将幸ファシリテーター事務所 代表）

今すぐ使える「7つのコツ」

- 1. 目的の明確化**
伝えたいことは何か。伝えたいことを一文で表すようにする。
- 2. 言いたいことをリストアップ**
伝えたいことをリスト化する。リストの中から取捨選択をする。
- 3. 言う順番を決める**
思いついた順で話すと、聞いている人は混乱する。伝わりやすい順番を考える。
- 4. 一文一文を、短く切る**
短い言葉で言い切るようにすると、聞き手は理解しやすい。
- 5. アイコンタクトを入れる**
会場の参加者に向けて話す。時計を気にしたりしない。物を紹介するときは、物を見せる。
- 6. ジェスチャーを入れる**
手元で示したり、少し手を動かすだけでもよい。大事な話の時に、一步前へ出るだけでもよい。
- 7. ゆっくり、はっきり、しゃべる**
早口になる人もいるので、気をつける。



プレゼンスキルの7・5・3をふだんの活動に取り入れてみてほしいです。プレゼンはやりながら上達するもの！チャレンジしてほしいです。

じっくりやりたいときのための「5つの作業」

1. 対象分析

どんな人に伝えるのか？→年齢・性別（基本情報）、会場にいる人数、地域分布、分野の経験とか詳しさ（使う言葉を選ぶ必要があるから）

2. 肉づけ

話の肉づけでプレゼンが豊かに。笑いを得られる話、例えば、、、という話。始め方と終わり方も大事。目的につながる終わりの言葉を用意しておく。自分の経験を話すと説得力が増すことも。データを示すやり方もある。

3. 場づくり

お茶やお菓子も場づくりのひとつ。ぬいぐるみを置く、音楽をかける、、、など雰囲気づくりをする。温かいかんじが伝わったり、グループらしさが伝わる。

4. 道具づくり

例えば、自分の団体の広報誌を見せる。難しいことば、言いたいキーワードを書いて示す。服装も小道具。

5. リハーサル

「3つの習慣」

1. 上手な人から学ぶ

「落ち着いているなあ」「アイコンタクトがいい」「ジャスチャーをうまく入れているな」周りに上手な人がいない場合は、テレビからテクニックを学ぼう。

2. 自分でチャンスをつくる

人にふってしまうと、うまくなるチャンスをなくす。つくったチャンスの数だけ上達する。

3. 他者から評価を受ける

人がどう感じたかを率直に言ってもらおう。仲間に聞く。会場の人に聞いてもよい。言いにくいかもしれないけど、私の上達のためだから教えてね、、、とお願いする。やりながら上達するものだ。

◆ 青木将幸氏プロフィール：

1976年生まれ。94年より、学生環境サークル、エコ・リーグ、A SEED JAPANなどで、オゾン層、森林、地球温暖化、若手リーダーの育成などをテーマに活動を開始。市民活動の人材育成を専門に行う市民団体「POWER-市民の力-」のトレーナー、企画会社ワークショップ・ミューのプランナーを経て、2003年に独立し、青木将幸ファシリテーター事務所を設立。会議や研修の場面におけるファシリテーター（進行役・促進役）の育成と実践を行っている。

2006年度活動スキルアップ講座第4回「報告書のまとめ方」

2007年2月23日（金）10:30～12:30

講師：後藤麻理子氏（日本ボランティアコーディネーター協会 事務局長）

港区地域こぞって子育て懇談会の報告書をつくろう！

- さて、「報告書」を何のために作りますか？ …… 目的
誰に向けて作りますか？ …… ターゲット

よく知っている
↑ 企画から参加していた人
当日だけ参加した人
↓ 関心はあるが参加できなかった人
少し関心のある人
関心がない人
まったく知らない人



■ どんな報告書なら読んでみようと思いますか？

表紙 伝えたい ←————→ 知りたい
目次
はじめに、あいさつ、まえがき
最初の5ページ
企画、運営のプロセス
内容（話されたこと、出された意見・質問、明らかになったこと）

■ どんなスタイルが伝わりやすいか

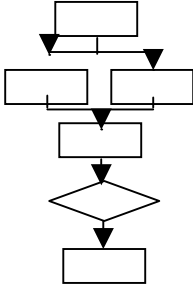
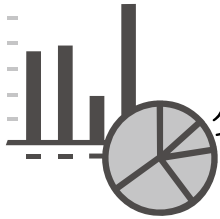
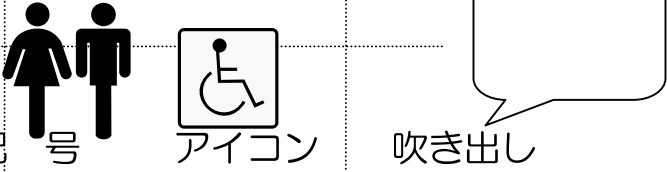

読ませ方、見せ方、魅せ方
ストーリーがある 起承転結
時間軸（ドキュメンタリー）
結論・経過・感想
親しみやすさ 絵本 雑誌
カタログ センスのいい本 身近な話題
便利さ、活用度 欲しい情報 知りたい知識 課題の共有

◆ 後藤麻理子氏プロフィール：

東京都社会福祉協議会に入職後、高齢者生活相談、ボランティアセンターにおける相談・情報活動・企業の社会貢献活動推進等、社会福祉ニーズに関する調査研究、広報、企画部門等の業務等を経て、2000年度より人材研修部門の統括主任。上記退職後2005年4月より現職（専任）となった。人と人、人と組織、組織と組織をつなぐコーディネーション機能の普及と地域福祉における行動する人材の育成に着目している。

■せっかく作る報告書。伝えるための工夫をしよう！

読んでもらおう！	見てもらおう！	魅力的に飾ろう！
----------	---------	----------

文字で表す	文章 短文 箇条書き	キャッチコピー	
	表・マトリックス	チャート	
	段落、タイトル、小見出し、囲み		
数で表す	数値 数表	グラフ	
			
イメージ	記号 アイコン	吹き出し	
	イラスト 地図 写真		
その他の工夫	レイアウト（余白、デザインの統一、活字の種類・大きさ）		
	ああああ ああああ ああああ ああああ		
	判型、大きさ、厚さ、素材、色・・・		

地域でまるごと子育て

2007年度活動スキルアップ講座第1回「先例から学ぶ子育てネットワークの展開」

2007年9月21日（金）10:00～12:00

スピーカー：松田妙子氏

（特定非営利活動法人せたがや子育てネット代表理事／本学卒業生）

はじめの活動はやっぱり子育てサロン～地域の活動も社会的な仕事！～

三重で第1子誕生後に子育てサロンを始め、その後、世田谷で子育てグループ a m i g o を産前産後ケアとして始めた。a m i g o では、当事者への直接支援は参加費をもらう。ボランティアな活動だが、プログラムは有償にし、それで拠点の家賃や電話代を払う。当初から常設の拠点で活動したいと考えたからだ。



講師を呼ぶ講座の時もコーディネート料をもらう。助成金がないと続けられない活動はしないと最初から決めていたので、運営目的の助成金を得たことはない。

参加費を払って勉強することは、その文化に慣れない多くの参加者には違和感があったが、長く続けて、お金を払って勉強する文化を構築した。活動は、誰もいなくなっても続ける人がいると思っていた。自分もそうだし、そう思う人たちが残っている。それ以外の人には、その場その場でできることを手伝うスタンスである。サークル内で、順ぐりに子どもを産む時期もあったので、その時々でできることを組み立てて続けた。

職場復帰せず、この世界にとどまる仲間もいた。それは、子どもがいながらできる仕事や活動をしたい、子どもがいる世界の環境をよくしたい、無理して続けられなくなると困るので、自分が望む子育てのスタイルを築いた中に活動や仕事があるモデルを組み立てたい、というワークライフバランスを求める人たちだった。私が始めた頃はそれらのモデルはなく、成功している女性は実家等に子どもを預けている人だった。

緩いかもしれないが、地域でつながりながら地域をよくしたいという活動も、社会的な仕事だと思う。それができる人は結構いる。ただ専業主婦だからやっているのではなく、これを仕事にして社会的な立場にしていかなければと思い、ある時はお金をきちんともらい、もらえなくても言い続ける活動も続けている。

ネットワークがほしいと思った

a m i g o の活動が産前産後ケアだったことから、産前産後の次、その先は違う活動に紹介すればいい、自分たちが全部やらなくてもいいと考えた。子どもの成長に合

わせた活動がしたい人に、「それは自分でやりな」とか「このグループにいてごらん」と言えるよう、顔をつなぎ始めた。数年たち、ネットワークづくりを a m i g o が行うのはへんだが、ネットワークは必要と感じ、法人格をとり、行政に、対等に、だが違う視点で地域や子育てについて言えるセクターとして自立しようと「せたがや子育てネット」を立ち上げた。「せたがや子育てネット」は、いろいろな地域のグループリーダー、地域のキーパーソンたちに来てくどいて立ち上げた。世田谷は広く端から端まで長い。実際には、あまり集まれずメールでやりとりした。年1回だけメッセに集まり、その準備で直前に2、3回会うネットワークで、サイトだけは続けた。ホームページを作り、皆で運営し、誰かから投稿が入ると誰かがチェックしている。

ある時期から行政との信頼関係が生まれた

ある時期から行政との信頼関係が生まれ、顔の見える活動をするようになった。例えば、母子手帳をもらう時、資料がばらばらでまとまったものがほしいと言ったら、「じゃあ作りなさいよ」となり、行政と共に冊子を作った。幼稚園入園時に、先輩ママに幼稚園のことを語ってもらう情報交換会も始めた。

そのうちに、自分のグループを何とかしたい、他のグループに聞いてみたい、うまくいった事例について聞きたい等、いろいろ出てきた。それはそれで必要だが、自分のグループの活動だけを見ていたのではだめだ、ということがわかり始めた。

ネットワークとして話しをすると見えてきたり、行政に話を聞いてもらいたいとき、ひとつのグループでは聞いてもらえないが、「区内80グループのネットワークです」というと行政も聞く耳を持つ。グループをネットワークしていき、その声を拾って代表として届けるスタンスで行政と話しているので、制度が動き予算がつくこともある。ひとつのグループで「予算をつけて」と言ってもだめだが、ネットワークだと成果にたどり着ける。

昔は陳情・署名・苦情で訴えたが、それはもう古い。行政は今、地域のグループと協働する気持ちをもっている。だが、ただのグループではダメで、いっしょにやれるスタイルや実績があるかを、行政としては見る。税金で行うのだから、説明責任もあるし、仕方がない。

ネットワークには、いろいろな相談が持ち込まれる。「せたがや子育てネット」は、中間支援であり、直接支援ではない。私たちが何かをしてあげるのではなく、子育て層と付き合い、グループで活動している人たちを支援する。そのようにして子育て環境を底上げしていく活動である。

行政に本当にやってほしいこと

行政が、すべての親子全部に付き合うことは、不可能だしお金もない。行政に本当にやってほしいことは、障がいを持っていたり発達に支援が必要な子ども、育ちの中

で支援が必要で長くサポートが必要な家庭、虐待がおこりそうなレッドゾーンにいる家庭などに対する、地域ごとの専門家との対応である。そのかわり、元気な子どもや家庭には私たちが対応しますよ、という協働を考えたい。

世田谷では、行政の支援を受けるのではなく、自分たちでお互いに支える地域創りやそのための仕組みづくりを私たちが考えるという暗黙の了解が、ここ数年でできあがった。行政との押しつけ合いではなく、得意だからやらして、という感じのやりとりである。いろいろなグループ・いろいろなレベルがあるので、自分の活動に余裕があり、ネットワークに関わることで、自分のグループに持って帰れることがあるならいっしょに、というスタンスである。

グループのネットワークは、行政と協働で行うところが多い。だが、グループの連絡会など、行政への要望で終わっているところもある。しかし、自分たちでやっていくスタンスで、お互い足りないところを補足しようという姿勢が大事である。

世田谷では、今春の異動で、子ども関係の職員が総入れ替えとなった。この半年間、これが仕事だというくらい、区役所の職員に制度ができた経過や活動の経緯などをしゃべりまくった。制度や活動について、改めて整理し直す活動でもある。

「子育て力」とは地域に対していう言葉

ある意味で、欲もなく、地域について、みんなが考える場づくりをしている。事業助成だけでは運営は困難なので、活動に賛同してもらい、寄付をもらい、会員になってもらう。会員になることも意思表示なので、世田谷での子育てをみんなで作ろうという表明をしてください、とあって会員を集めている。

「親の子育て力」「子育て力の低下」という言葉があるが、子育て力があるとかないとかを当事者に求めるのは酷で、「子育て力」とは地域に対して言う言葉だと、みなと話している。個人の子育て力がついていないのは、つけてこなかったツケである。その人たちを育てた人たちのやり残したことだと思う。この時代に困っていることは、前の時代に子育てしていた人たちが、やってこなかったこと・できなかったことである。今そのツケを払っている。世代の違う人々から、「今の親は、、、」と言われる時、その親を育てた世代のツケだと私は思っているので、それをまた次の世代にツケで払わすのはよくない、だからこの時代に解決していこう、上の世代からもらえなかったのなら、私たちの世代で次の世代に渡そうと思う。大きなことは言えないが、そのくらいの気持ちをもって、できる範囲で、今いる人たちと「子育て力」を培う活動が必要なのだと思う。

ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルの活動

関わっている「4つ葉プロジェクト」¹は、全国的な会で、子育てを社会のみんなでも知ろうというプロジェクトである。具体的には、子育てのために使うお金があまりにも少ないので、国に子育ての財源をつくらうという活動である。4つ葉とは、年金・介護・医療という社会保障の3大柱に、子育てを入れて4つ葉に、ということである。人生の入り口と終わりは保障されるよう、子育てが入っていないのは不備という発想である。

ミクロが、毎日の子育ての暮らしや直接の子育て支援だとしたら、ネットワークはメゾである。子育て中の人たちを支える、いろいろな人たちを支援する、物事を地域レベルで視るのがメゾ。マクロとは、国の予算や制度について勉強し、発言して意見を届ける活動である。

マクロの制度がおかしくなると、個人（ミクロ）にじわじわと関係するので、今どこにいるのか、この活動はどれなのだろう、どこに向いているのだろうということを考える。直接支援（ミクロ）は苦手だけど、メゾ・マクロの方が得意という人もいる。目の前に心配なお母さんがいて、その人に寄り添えて、それが得意という人はミクロ。ミクロが下で、マクロが上ということではない。順を追って見えてくるかもしれないし、あるところまで見えた後ミクロで活動する人もいるだろう。場面と場合によって切り替えて話ができることもある。3つのレベルを自分の中にもつことで、自分の活動が変わることもある。



一般化して話せるかどうか肝心

一般化して話せるかどうか。自分の困りごとと地域の困りごとは別である。客観的に見て話したり、自分たちの活動をまとめてみた時に、他のグループはどうしたらよいかが見える。すると、新しい視点で自分のグループの課題が見え、解決する道が開けることもある。課題を、愚痴や文句ではなく表わすとアドバイスがもらえたり、似た活動をしている人と連絡が取れたりする。活動の課題等を一般化するのは難しいが、意識して行うことが必要である。制度や活動の課題について、自分のグループから発言するだけでなく、ネットワークの意見として言えるとよい。

子育て当事者を支援の受け手にしないためには？

全国で公立の子育て支援センターが作られている。公立の無料の子育て支援センター

¹ 「つくらう みんなで子育てする社会4つ葉プロジェクト」ホームページアドレス
<http://yotuba-project.net/>

ができた瞬間に、全国的に子育てサークルが潰れた。それは、自分たちで考えたり企画したり当番することがなくなり、お金をかけずに通えるセンターが毎日あいていたら、人間は楽な方に流れる。当時、子育てグループの人たちは、悩みに悩んだ。

数年経って、子育て支援センター側が困りはじめた。それは、来た人たちが片づけて帰らない、もっと長く開けてくれ等の要望が増えた。要望が増えた割にセンターを大事にしないので、当事者に対して怒っている。子育て当事者を、子育て支援の受け手にしてしまったのだ。

支援の受け手にしないためにはどうしたらよいか。口を開けて待っている人に餌を運ぶような子育て支援は、自分たちで考える力や何かをする力をそいでしまう。自分たちで考えて組み立て、やってみてダメだった時に、どうしようと悩むことが大事で、そうしたチャンスは、次の子育て中の人にも体験させてあげなければいけない。活動しないですむ人が増えたり、あつてあたりまえの人が出てきたが、そこからリーダーになった人たちは全然違う。自分がしたことをそのまま引き継いで、、、ということも難しい。席をつくって、そこに上がって担ってもらうことも大事である。自分がいなくなったらできない、では困る。本講座に、グループの人を連れ、その人にも刺激を受けてもらう。やろうとすることを応援してくれたり、立ち止まっている仲間をフォローするようになるかもしれない。

これからの子育てグループはチーム力！

これからの子育てグループやネットワークは、リーダーの力も大切だが、チーム力だろう。役割分担は必要だが、グループの中を強められるとよい。実務を伝えることも大事だが、これからのための話し合い日を作り、グループでの活動や地域の子育てについて話し、目線を揃える作業をグループ内でする。それが活動の広がりになる。

子どもが小学生になると、新生児の大変さを忘れる。だが、あの時を「大変だった」で終わらせず、大変さが次の世代に繰り返されることに思い至らせ、できることは何かを考えてもらうことが大切である。それを誰かに伝えようと思うと、一般化しなければいけない。その時に、自分はどう思っているかを考える。自分なりに、いったん解釈して人に伝える作業をすると、それが伝わる。「誰かがこう言っていた」では伝わらない。

活動者は、人がよく、気軽に頼まれやすく、何でもかかえこむタイプが多いが、それらは自分のスキルだと思ふとよい。この人に相談しようと思われるのはいいことで、グループやネットワークの価値につながる。活動すること自体が価値であると、自信をもって思ふべきだ。介護や子育ては、専業主婦がボランティアにやってくれるだろうと世の中の仕組みができてから、時給も低い。仕事にしようと思った時に価値として認められていないと感じる。ボランティアにやる人がダメなわけではなく、ボランティアにやるべき人たちも必ずいる。だが、その人材を求めたり巻き込んだり、

次のステップへ引き上げることは、ある程度までは仕事でないと思ってしまう。

世田谷では、現在、最後は人材育成だ！ という認識である。リーダーがそろい、グループがありますと成果を見せ続けていくと、気づいた時には環境がよくなるだろう。

行政職員の異動で、経過を延々伝えたが、それは、自分たちの活動や環境を考えてくれる人が、どんどん広がったことでもある。最後は自分の活動に戻ってくる。やめようか、違う活動へ行こうかと思った時、今までやってきたことを、いきなり誰かに継がせるのではなく、評価したり、立ち位置を確認したり、それを人に見せることが重要だろう。

区民による 育児支援ネットワーク

『せたがや子育てネット』

世田谷区には、地域の子育てを支える市民グループがたくさんあります。

せたがや子育てネットは、区内の約80もの子育てグループとネットワークして、さまざまな活動を行っています。子育ての悩みを共有したり、子育ての視点からまちづくりに取り組んだりしながら、「世田谷で楽しく子育てをしようよ」と呼びかけています。みなさんも、ぜひこの輪の中に加わってください!

せたがやの、子育て力。

活動を始めたきっかけとねらい。

「せたがや子育てネット」は、子育てグループのネットワークのほか、インターネットを活用した情報交換の場「ママリV(ぶりっし)」として2001年にスタート。その後、同じネットワークグループである「ママチャリねっど」とともに、2004年にNPO法人化しました。

安心して外出したくなるような、いろいろな人やグループが出会える場をつくりたい。子連れで参加できるまちの情報を提供したい。そして、そんな視点からまちをよくする提案をしていきたい。こうした「子育てバリアフリー」が将来の目標です。ママリV(はもちゃん、それ以外にも多くの方々のお返事をいただいています。

コミュニティカフェ「ぶりっし」オープン!

2006年9月、せたがや子育てネットと世田谷区、商店街とのコラボレーションにより、子育てにやさしいコミュニティづくりの拠点として北沢にオープン! 講座や勉強会などが開催できるスペースのほか、コミュニティキッチン、一時預かり用のスペースがあります。子育て情報もたくさん集めていますので、ぜひお気軽にいらしてください!

会員登録は簡単です!

正会員：入会金なし
年会費 3,000円(個人) / 10,000円(法人)

賛助会員：入会金なし
年会費 3,000円(個人)以上(法人)
10,000円(法人)以上(法人)

*振込先：郵便振替 00110-5760151
NPO法人せたがや子育てネット

★お気軽にお問い合わせください
NPO法人せたがや子育てネット
〒155-0031 世田谷区北沢2-37-17
下北沢一番街商店街振興組合事務所2階
TEL 03-6804-8710 FAX 03-6804-8711
E-mail info@setagaya-kosodate.net
URL <http://www.setagaya-kosodate.net/>

区民による育児支援ネットワーク

せたがや 子育てネット

地域を子育てしようよ!



<http://www.setagaya-kosodate.net/>

せたがや 子育てネット

は、主に次の5つの活動を柱に「子育てのバリアフリー化」を目指しています。

- インターネットによる子育て情報の収集と提供
- 子育てグループのネットワーク
- 子育てを応援する場づくり
- 子育て情報メディアの発行
- 子育て環境の向上に向けた調査研究

世田谷 カキコまっぴ

インターネット上の地図に地域のクチコミ情報を簡単に書きこめるシステムです。おすめおでかけ情報を、みんなが地図上にどんどん書き込んでくれます。(書き込みも大歓迎!!)

保育園・保育園情報交換会

実際にお子さんを通わせている先輩ママから話が聞ける情報交換会を地域で開催。

子育て情報メッセンジャー

子どものお出かけにオススメの場所やお店、クチコミ情報を集めて「おでかけマップ」にして配っています。メンバーは子育て中のママリV、子育てに関心のある学生さんなどです。次はあなたの地域でつくります!ぜひご参加ください!

マイホームページをつくろう!

情報を記入するだけで簡単に自分のホームページがつくれるというシステムです。例えば、自分たちのプロフィールやイベントのお知らせといった情報を、写真入りで簡単に紹介できます。どんどん情報を発信しましょう!

保育サポーター

保育サポーターの養成や紹介も行っていきます。

BabySteps(女性の創業・起業支援)

BabyStepsは、あかちゃんみらいなちヨチヨチ歩きのこと。小さくても、大切な「はじめての歩み」を踏み出して、一歩一歩進んでいくことを応援します。

行政・企業との協働

調査・研究など

2005年、行政とせたがや子育てネットのスタッフを含む市民有志により編成された母子「せたがやこそでコンパス」が発行されました(2006年改訂)。妊娠時から小学校入学までの情報が掲載されています。

出前プログラム

支援のためのワークショップや、乳幼児の防災・救命・救命の講習会の企画。

http://www.setagaya-kosodate.net/

2007年度活動スキルアップ講座第2回「NPOによる子育て応援プログラムを知ろう」
 2007年10月31日（水）10:00～12:00
 スピーカー：特定非営利活動法人男女平等参画推進みなと（GEM）理事長 南かほる氏
 きてきて先生プロジェクト 代表 香月よう子氏
 クリエイティブ・アート実行委員会 事務局スタッフ 小堺直子氏
 特定非営利活動法人テクノシップ 理事長 児嶋みち子氏

特定非営利活動法人男女平等参画推進みなと Gender Equality of Minato (GEM)
スピーカー：南かほるさん

だれもが個性や能力を生かして自分らしく暮らせる地域社会をつくるために…

実現したいこと

一人ひとりの、
男女平等意識を高める

あらゆる分野で、男女問わず、ともに
活動する人の
ネットワークを広げる

市民、行政、企業、研究機関と
連携し、男女平等参画推進の
実効を挙げる

だれもが個性豊かに生きる真の
民主主義社会を創る！

男女平等参画社会の実現をめざし行っている事業

- (1) 講演会、講座開催などの啓発事業
- (2) 就業に必要な技能習得支援事業
- (3) 女性に関する各種相談事業
- (4) 仕事と子育て両立のための一時保育事業
- (5) 男女平等に関するホームページの運営
- (6) 男女平等に関する調査・研究活動

南さんより：近隣の方の子育て
を応援する活動も行っている
ですよ。若いママたちのグルー
プ活動応援します！！

連絡先：〒108-0075 港区港南 3-4-8-1111
 TEL&FAX03-3472-5787 理事長：南かほる

きてきて先生プロジェクト

スピーカー：香月よう子さん

**子どもの元気、笑顔を核とした地域コミュニティの再生
 ～ホンモノ体験で次世代を担う地域人材の育成～**

ミッション

- ・子どもの笑顔を中心とした地域コミュニティの再生を目指します！
- ・子どもにかかわる大人を増やします！
- ・子どもと大人、企業と学校、地方と東京など、
「異文化」といわれるものを結びつけ新しいものを生み出します！

活動概要

学校活動支援、学校外教育活動支援
 まちづくり、地域人材育成支援
 (例 学校の授業でイベントを学び、地域のイベント、お祭りなど参加し、
 地元の人と子どもたちが協働して新しいイベントを生み出しました。)
 イベント・講座・研修企画、普及・啓発

連絡先：http://www.kitesen.org

香月さんより：同じ子育て
中の当事者として、当事者
の方から声を上げられたら
いいな、痛みあえる仲間た
ちができたらいいなと考え
ています。

第2回は、主に港区内で活躍するNPO4団体の方々に、追求するビジョンやテーマ、日頃の活動の様子についてお話を伺い、情報交換&交流をしました。



クリエイティブ・アート実行委員会

スピーカー：小堺直子さん

21世紀を迎えた今、新しいコミュニティのあり方が模索されています。コミュニティ・アートはさまざまな人々に「アートを創る場」に参加してもらうことを通して、個人の創造的成長を促すのみならず、コミュニティにおけるつながりを再構築し、新たなコミュニティの創造に貢献する活動です。クリエイティブ・アート実行委員会は、アート教育活動のさまざまな経験と、海外の優れたコミュニティ・アーティストやコミュニティ・アート団体とのコネクションをベースに、個人とコミュニティを元気づけるさまざまなアート活動を行っています。

『私と町の物語』展覧会 都心の変化の激しい地域で生きてきたひとびとの写真を集め、ひとりひとりの写真にまつわる物語を集めた展覧会を5回にわたり開催してきました。集められた写真は、「港区 私と町の物語」(上巻・下巻)として港区より発行され、支所等で有償頒布されています(各巻500円)。この展覧会の企画の中で、子どもたちが同じ街に住む高齢者にお話を聴きに行く活動や、町歩きや町の人々と交流しながら地域をテーマにしたダンス作品を創り、子どもたちがパフォーマンスする活動などに取り組んできました。

小堺さんより：私たちはどんな物語を受け継ぎ、そして、どんな物語を未来に託そうとしているのでしょうか？

連絡先：〒107-0062 港区南青山 4-6-10-101
TEL03-3479-8535 FAX03-3402-5438 Eメール MuseKK@aol.com

特定非営利活動法人 テクノシップ

スピーカー：児嶋みち子さん

◆発達障害児・者のための就労への支援と学習・余暇活動支援◆

人は誰でも、障害の有無に拘らず、どこかにきらりと光る物をもっています。テクノシップは、まずそれを見つけ出すことから始めます。

教室生一人一人のレベルに合わせた学習、さまざまな作業実習、社会性を自然に身につけていけるグループでの共同作業など多方面から指導、支援しています。こうした学習を通じて将来良き一社会人としてはばたけるよう支援する、それがテクノシップの理念です。(リーフレットより抜粋)

就労への支援コース(生活能力支援コース)

作業学習を通じて生活能力を向上させ就労を目指す。登校困難児・者支援も行っている。

ソーシャルスキルコース (SST)

学校で、職場で、望ましい人間関係を築くためのトレーニングコース。

教育支援コース 就学児童・生徒を対象に学習のつまづき等を個人個人のニーズに応じて支援する。

余暇活動支援クラス

生活を豊かにし、楽しみを増やすことを目的にゆっくりしたペースでやさしく指導。地域の方との共生、利用者同士の交流も大切にしている。

対象：障害のある方対象ですが、趣旨に共感される方ならどなたでも受講できます。

クラス：パソコン、さわり織り、墨アート、花アート、調理、ジョイスポーツ、
ドラムサークル、ボウリング、カラ
オケ等

連絡先：〒108-0071 港区白金台 4-7-12-201
TEL&FAX03-5421-2477
(電話は、平日の10~16時まで)
Eメール：npo-technoship@khe.biglobe.ne.jp
ウェブサイト：http://www.npo-technoship.com/

児嶋さんより：テクノシップは、Cafe Arina(喫茶店)の2階にあります。Cafe Arinaは、子連れママ歓迎のステキなお店ですよ♪(テクノシップもオーナーの厚意でお借りしています) 余暇活動支援クラスはどなたでも大歓迎ですよ~子連れの方もいらしてくださいね~!

2007年度活動スキルアップ講座第3回「活動資金や協賛の獲得方法」

2007年11月16日（金）10:00～12:00

スピーカー：幾島博子氏

（特定非営利活動法人ふれあいの家-おばちゃんち事務局長／本学卒業生）

長谷川美知子氏（品川子育てメッセ実行委員／本学卒業生）

ふれあいの家-おばちゃんち幾島さんより

●子育てグループの活動資金獲得状況●

「子育て支援ネットワーク品川（おばちゃんちが運営するネットワーク）」につながる団体は、年間予算規模が億単位の団体から、会費もなくコピー代月100円程度で活動する団体まで幅が広い。

* 会費運営

ほとんどの団体は会費で運営している。会費には、大きく分けて2種類ある。

- 1) 活動している自分たちが活動のために出す会費
- 2) 会の活動に直接は参加しないが、会費を出すことで活動を支える意味の会費

小規模団体の多数は、活動者の持ち出しの会費で行っている。払ってでも活動する気持ちを繋いで、納得した人が会に加わって活動するという形である。

* 行政からの助成

- ・ 生涯学習課委託学級、講演会、若葉マーク講習
- ・ 児童館等からの公演や派遣依頼

小規模団体は、生涯学習課委託学級、若葉マーク講習（厚生労働省）等の助成金を利用している団体が多い。委託学級費は、対象が講師謝礼限定の場合もある。

* 行政からの委託事業

規模の大きい団体は行政からの委託事業を行っている。事業が公共性をもつことから、行政から委託されている。例）外国の子どもたちの日本語教育、障がい児の放課後ケア事業

* 民間助成

民間助成団体（例えば、麒麟財団・大和証券福祉財団・こどもゆめ基金ほか）による助成金を獲得する。助成金情報のサイトがあるので活用する。

助成金情報のサイト「NPOWEB」 → <http://www.npoweb.jp/>

* 全国組織からの支援 例）チャイルドライン支援センター、親子劇場

* 事業運営



●ふれあいの家—おばちゃんちの事業と資金●

*資金状況の歩み

会費・寄付収入以外の収入として、行政からの助成・民間助成団体からの助成金・行政からの委託金等があり（各年度ごと、事業の実施状況により異なる）、予算規模は、2007年度までの4年度間で、当初の規模（約160,000円）から約80倍にも拡大した。助成機関と実際に行った主な事業や用途との関連は以下の通り。

助成機関	実際に行った事業や用途
社会福祉協議会 経由 地場産業	→ 広報活動
社会福祉協議会 経由 地場産業	→ 備品購入
社会福祉協議会（ボランティア団体に対する年間助成）	→ 広報印刷
民間助成財団	→ 子育て支援セミナー開催
独立行政法人医療福祉機構	→ 「子育て・子育てにやさしいまちづくりネットワーク事業」
行政 生涯学習課	→ 社会教育委託学級
保育課	→ 保育サポーター養成講座
保育課	→ Nobody's perfect 講座
児童館	→ Nobody's perfect 講座、単発講座
行政+NPO東海道宿とのコラボレーション	→ 子育て交流ルーム「品川宿おばちゃんち」
その他 商店街	
観光協会	
企業	

おばちゃんち代表の渡辺さんは、「お金をもらおうと苦しくなりますよ〜」
 と言っています。予算規模があるということは、とても苦しくてたいへんです。
 年間予算が16万円だった時代がなつかしいなあと思うことも、、、。

くれぐれも、自分たちができる領域に合わせたお金を
もらっていくことだと思います！

◆ポイント◆

公的な登録をする（重要！）
 ~会則・実績 法人でなくてもよい
 実績から社会的評価を得る
 行政、社協、民間助成、企業
 仲間とのネットワーク
 ~情報共有、信頼、協働



品川子育てメッセ実行委員長谷川さんより

品川子育てメッセは、フタを開けたら来場者が3500人でした～～！！

●品川子育てメッセ開催の経緯●

私たちには全くお金がなかった～協賛金募集へ……～

実行委員は、つながりのできた地域の活動者たちで、団体の代表限定ではなく、イベントを「やってみようか」という有志だった。他地区のイベントを見学し、自分たちならどういふイベントをやりたいかを話し合った。最初は月1回、その後週1回になった。みな一時保育に預け、保育代も自前だった。最初は実行委員長の思いに共感し集まったが、実行委員が多数になると、それぞれいろいろな考えをもっていることがわかった。

イベントを実際に行うにあたり、私たちには全くお金がなかった。先に押さえた会場の費用約10万円をどこから捻出するかが課題となった。助成金を申請したが審査に落ちた。「どうしよう～！！」となり、カンパを募ることになり、自分の団体や地域の商店街をまわった。私は生協会員なので、生協に広告費・出店・カンパ等を交渉した。地域の商店街には飛び込みでも行った。だが、みなそれぞれ、会社や何かつながりをもっており、頼っていった。お金は出せないが物は出せるという所もあった。でも、誰でもいいわけではなく、品川に関係あるところ、子育てメッセの趣旨に合うところに来てほしいと話し合った。

結果としてお金は集まり身が引き締まった

結果としてお金が集まり、当初は白黒の手作りチラシだったが、気持ちが大きくなり、カラー印刷チラシを作った。電柱までは貼らなかったが、地域の看板・掲示板に貼らせてもらいたいと頼みこんだ。イベント用ホームページもブログも作った。

お金はまわりものだから、なかったら、ないなりのイベントができたかもしれない。だが、結果として協賛金を得、協賛金をもらうからには、きちんとした会計報告や協賛団体名の掲載等、ちゃんとしたものを作らなければと身が引き締まった。

運営はたいへんなこともあったが、やる気があってできたこともある。保育費は結構な額になった（予算に余裕が出、保育費は返ってくるようになったが）。ただ、子ども2人を預ける人は、お金のことではない躊躇も現実にはあったようだ。

気持ちがあればお金も人も援助してくれるところがあると気づいた

今回の実行委員会は解散した。今後に向けて、意見は様々である。同じようにまたやりたい、ホテルでやろう、入場制限で怒った人も出たので規模を小さくしよう、小学校の体育館を借りよう等々。私たちもただ母だけで、イベントを取り仕切る仕事をしているわけではない。自分たちの地元ネットワークを紹介するためであり、企業出展が目的だったのでもない。準備等は協賛金担当・チラシ担当・保育担当等々、役割ごとに進めたので、進行状況を合わせるのが大変だった。途中で見直さないと違う方向に行くことも起こりかねない。区役所は、最初は勝手に区民が行うイベントと思ったみたいだ。だが、区のブースも設け、区のイベントより人出が多く、職員も途中からはっぴを着て手伝いにきてくれた。

今回やってみて、気持ちがあればお金も人も援助してくれるところもあると気づいた。ただ、関わる者みなに、「こういうことをやりたい！」という明確な意志がないといけないとも思った。しかしやってみて、社会とつながっていて面白いなあ！と思った。

●●● 品川子育てメッセ2007 開催のご案内 ●●●

品川の子育てママのためのイベントです

来年3月2日に子育て真っ最中のママ達の手作りで、「しながわ子育てメッセ」を開催します。

これから子供を産みたいという方や小さい赤ちゃんをお持ちの方たちに、ぜひ品川の子育て情報を広めたい!地域で頼れる仲間やご近所さんがいるだけで心強いんだよ、という熱いメッセージを込めたものです。

メッセは品川全体での子育てを目指します

- 品川で活動している子育て関連団体を網羅し、横のつながりを強めます。
- 地域の方と一緒に子育てできるように、地域情報をお知らせします。
- 地域との繋がりを持つことで、孤立しがちな親子を活動参加によりこみ、育児不安や虐待を防止します。

実施詳細

日 時：平成19年3月2日(金) 10:00~16:00
 場 所：きゅりあん 7階イベントホール
 入 場 料：無料
 費 用：30万円(会場代、パンフレット代)
 後 援：品川区、品川区社会福祉協議会、(財)21世紀職業財団
 集 客：乳幼児の親子、子育てに関心のあるかた 800人
 主催団体：品川子育てメッセ実行委員会
 NPO法人ふれあいの家-おばちゃんち

ご賛同、ご協賛いただける団体、個人さまを募っております。

- 個人一〇千円、団体三千円から。
- 広告掲載A4を8分割サイズ(横88mm×縦58mm)で、三千円から。(別紙サンプルをご参照下さい。)

※行政主導ではありません、開催費用は自分たちで工面しています。

私たち実行委員の想いが伝わり、品川区、社会福祉協議会からぜひ、地域のみならずにもお力添え頂きたく、よろしく願い致します。

主催団体紹介

品川子育てメッセ実行委員会 品川在住の母親有志18人で、自主的に結成。
 HP <http://www.xxxxxxxx> BLOG <http://xxxxxxx/xxxx>
 e-mail xxxx@xxxx

NPO法人「ふれあいの家-おばちゃんち」 2003年より品川区で活動している。本年11月より、品川区・北品川商店街・NPO品川宿との四者協働事業で北品川にオープンしました。地域での子育て拠点となり、親しまれる施設を目指します。
 HP <http://obachanchi.org> e-mail mikochan@cfs.ne.jp



●●●● ご出展・ご協賛方法のご案内 ●●●●

*企業紹介ブース出展 【出展料】3万円

会場内販売は一点500円以内、貴社の広報・サンプリング・モニターなど可能。また若い母親向けの商品・サービスなど特にご紹介ください。

- ・配布冊子*広告ページにて貴社広告(縦124mm×横88mm)、出展企業紹介ページに貴社広告(縦50mm×横180mm)2箇所]に掲載。
- ・配付チラシ(4000枚)、配布冊子*の協力団体欄に貴社名を掲載。

*ご協賛金 【協賛金】1万円から

- ・配布冊子*広告ページにて貴社広告[(縦58mm×横88mm)1箇所]に掲載。
- ・配付チラシ(4000枚)、配布冊子*の協力団体欄に貴社名を掲載。

*ご協賛品提供 【協賛品】貴社商品、サンプルなど

貴社商品、サンプルなどをご提供ください。当日行方、来場者参加型抽選会にて商品説明とともに来場者にプレゼント。

- ・配布冊子*にて貴社名を掲載。
- ・配付チラシ(4000枚)、配布冊子*の協力団体欄に貴社名を掲載。

*広告スペース 【掲載料】1枠:3千円、2枠:5千円、4枠:全面:応相談

配布冊子*に貴社広告を掲載いたします。1枠:(縦58mm×横88mm)

*エコバックスポンサー 【作成料】10万円

来場者に厚労省推奨マタニティーマーク及び、メッセキャラクター入りのエコバックを無償配布(予定500枚)。バックの片面に貴社ロゴを印刷。サイズ・デザインはご相談ください。(マタニティーマーク使用許可確認済)

*垂れ幕スポンサー(大井町きゅりあん) 【作成料】7万円

子育て情報を得にくい方達へ広く一般に周知するため、JR線構内からも見える大井町東口きゅりあん前に垂れ幕を垂らします。

*その他、個人 【賛同金】一〇千円から

ご希望の方は、配布冊子*にお名前を掲載。

※配布冊子:イベント案内冊子を作成、無償配布します。(配布:1000部)

A4, 16p 1色刷(表紙カラー)、業者印刷。参加団体詳細案内と区内団体一覧、協賛企業紹介。

出展料・ご協賛金等のお振込みは下記口座をお願い致します。(通信欄に「子育てメッセ」とご記入願います)

- 銀行 品川駅前支店
- 【店番号】 【口座番号】普通 【口座名義】ふれあいの家-おばちゃんち- 代表
- 郵便局口座
- 【口座記号番号】00120- 【加入者名】NPO法人 ふれあいの家-おばちゃんち

2007.12.22

2007年度活動スキルアップ講座第4回「意見が出しやすくなるミーティングの工夫」

2007年11月30日（金）10:00～12:00

ファシリテーター：青木将幸氏（青木将幸ファシリテーター事務所 代表）



活発な会議にするにはどうしたらよい・・・？
会議のやり方にはいろいろあります。
自分の団体に合うやりかたを選んで行ってほしいです。

会議には、机をはずし、立って行う方法もあります。
たて軸：自分のからだの調子
よこ軸：最近ラッキーなことがあったか？
自分はどのへんになるか、位置を決めて立ってみましょう。（アイスブレイク）

からだの調子が悪いと、会議に本腰が入りません。
体調の悪い人がいないか等も、気を配りたいですね。

自分のはなしやすい！と思う時

- 自分の話を一生懸命きいてくれる時。「うんうん」とうなずいてくれるだけで安心。
- 聞いてくれる人がいることがわかっている時。
- オフィシャルの会議の方が一線ひいているので話しやすい。
- 冒頭進行者が、「今日は何言ってもいいですよ」というふりをしてくれた時。

青木さんより：「進行役の緊張感やカリカリ感は場に伝わりますね～」

- 場の空気が和やかな時。
- 音楽がかかっていたら話しやすい。
- 話さなければいけないことがある時（話しやすいわけではないかも）。
- いろいろ考えてしまうと話しにくいので、自分がリラックスしている時。とっさの方が話しやすい。

自分のはなしにくいと思う時

- 話し合いの場に、納得していない人がいる時。

青木さんより：「普通に話し合いを始めることはできない。私は、納得していないかどうかをききます。しんどいとか腹が立っているとかを表明する機会を皆に提供します。聞かずに、趣旨を押しつけると反発が大きくなるだけで、進行役は言っても伝わらない人と思われます。」

- 私は話せることがない、意見がないとひかれてしまう時。進行側が優位と受けとられてしまう時。
- 親しい人がいる時。どこまで話していいか考えてしまう。重い表情をしている人がいると、盛り上げた方がいいのかそうではないのか考えてしまう。
- 話しやすい状況はあまりない。いつも話しにくい。
- 立場の違う人がいる時。
- 耳の痛い話を伝えねばならない時。
- シーンとしている時、雰囲気暗い時。よく知らない人から発言を否定されるのではと思ってしまう時。

はなしやすい時・はなしにくい時を出し合ってみてわかったこと
～会議の秘訣はこの中にありそう～

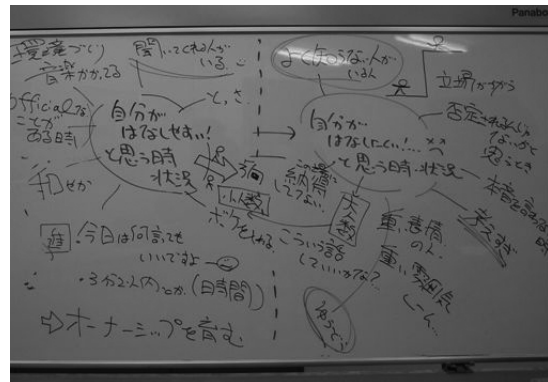
- ・向いている方向が同じならば、話しやすい。どっちつかずで、本音が出ないときは話しにくい。
- ・相手が本音を言っていないとわかると、自分も本音を言えない。
- ・少人数だと話しやすいが、大人数は話しにくい。

青木さんより:少人数に分け、2分間でもよいので、少人数で話せるよう設定します。発言をどう思われるかと気にならなくなります。俗に、「下駄箱会議」とは、教室では本音を言わず下駄箱で意見交換すること。少人数で、発言を否定されないから本音を言えるのです。

- ・進行役が、「発言は長くても3分以内で」等と、時間の使い方を予め断るとよい。「今日はいくらでも話しましょう」と言えることもあるだろう。
- ・BGM(音楽)や机・名札など、環境づくりは重要。
- ・進行役のもっていきたい方向に誘導してはいけない。

青木さんより:進行役は力をもつので、異なる意見を特定の方向へ誘導することが不可能ではありません。
しかし、進行役の一番の要件は、誘導をしないことです。自分の思っている方向に導くことは進行役ではありません。皆が納得できる方向へもっていくことを手伝うことが、進行役の役割です。書記と同様の中立さが必要です。

会議・ミーティングに
関するQ&A



Q & A

Q 皆が納得する方向へもっていくとは、どの程度の「納得」なのだろう？

A 団体により納得度が異なる。過半数で決めている団体、リーダーとサブリーダーが納得していればOKとする団体もある。会の趣旨とも関わる。会への参加時に趣旨説明が明確にされていることも重要。

Q ファシリテーターが責任を投げってしまう時はどうしたらいい？

A 進行役の一番の役割は、会議は皆のものであるという権限を、皆にもってもらうことである。皆で決める、ルールを話し合う、事業を決める等は「オーナーシップ」のためである。

「オーナーシップ」とは、「この団体は私たちの団体だと皆が思うこと」。

参加者が主体的に関わる気持ちを沸かせるような会議の進行は、オーナーシップを高めたといえる。責任を投げたとは、オーナーシップが高められたともいえるかもしれない。

Q オーナーシップのある、がんばっている人の合意で進展するのはよいが、中レベル以下の人たちがいっしょにやっていくには、どうしたらよいのだろう。

A 皆に決めてもらう機会をふやすことで、自分たちも関わる会なのだ、ということが伝わるようになる。結論を報告する場だけにしない。オーナーシップの成長段階によって、決定の方法を検討する。会に参加するだけの人にも、その時になぜ参加しているのか等ときいてみるとよい。中レベルに上がる時とは、後から入った参加者がいる時がチャンス。

Q あとから、「やはりこう思った」と言われることがあるが、どうしたらよいか。

A 締め切りが迫り、処理済みのことは無理だが、そうでなければ、修正可能もありうるだろう。その意味で、より重要な案件については、1回の会議で決めず、2回に分けて意見の整理を行い、次の会で決めるから考えてきてと、考えるための時間を提供するとよい。

Q 上手なプロセスの共有方法はあるか？その場にいらなかった人に結果を伝えるが、プロセスを共有していないとうまく結果を共有してもらえないことがある。

A 来ない人はしょうがない。しかし、その人に思い入れがあるのがわかっている場合は、その人抜きでは決めず、その人にいてほしいなら日程を合わせることも必要。だが決めねばならないけれど日程も決まってしまう場合、その人に意見は聞くけど、決まったことについては何も言わないで、と伝えることも必要である。私の関わる団体では、「欠席した会議で決まったことには異議は言えない」というルールを作っている。そのかわり、皆が出席できるよう、大事なことを決める会議は、半年前から日程を決めている。

Q 進行役は自分の意見を言ってはならないか？

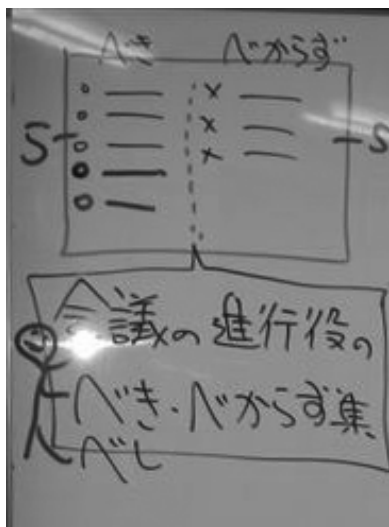
A 進行役も自分の意見を言いたくなることもある。言ってもよいが、その意見の方向へ引っ張ってはならない。ひとつの意見として扱う。

Q 進行役を支えるメンバーとして役立つことは？

A 進行役の頭が真っ白になることがある。「次この話しませんか？」と助け船を出してくれたり、質問形式で「そもそも、この目的はなんでしたっけ？」という援助的質問が役立つ。



グループごとに考えた「会議の進行役のべき・べからず集」



べき

会の目的とゴールを明らかにする。
 人の話を聞くべし！
 笑顔でうなづくべし！
 リラックスした雰囲気をつくる。
 いきなり本題に入らず、間をとるべし！
 自ら本音でしゃべるべし！
 自分の意見ばかり入れない。
 聞き上手になるべし。
 プラスの雰囲気をつくるべし。
 会の抑揚を作る。

べからず

誘導すべからず。
 マイナスの表情すべからず。
 (怒る・落胆・バカにした表情etc)
 あまりにも大きな声でしゃべらない。

べき

終了時間を伝達する。
 アイスブレイクをもつ。(リラックス)
 そのときの会議のルールを決める。
 会議の目的を話す。
 どこまでやるのか、目標を共有する。
 環境づくりをする。
 休憩タイムを設け、時間管理を行う。
 発言時間について、ひとりだけが長く話さないようにする。
 中立の立場で聞く。
 あいづちをうつ。
 発言した人に「ありがとう」を伝える。
 「あとでもOKですよ」と伝える。

べからず

自分の思っている方向に誘導しない。
 言っていることを否定しない。
 えらい立場の人にこびない。

べき

楽しい自己紹介をするべき。
 (みんな、全体)
 目的を的確に伝えるべき。
 明るく、あたたかみをもって話すべき。
 なにかひとつ笑いをとるべし。
 自己紹介(自分の)で何か1ネタ。
 心を配る、気を配る。
 それぞれのいい所をみつけて、フィードバックする。(対立した意見など)
 和やかで明るい環境づくり。

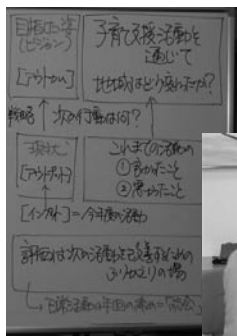
べからず

話をさえぎるべからず。
 進行役が決めるべからず。
 引き出そうとしすぎて、しゃべりすぎない。
 火に油を注がない。
 巻き込まれない。

2007年度活動スキルアップ講座第5回
 「子育て相互支援活動からめざす“地域創り”～活動の評価をしよう～」
 2008年2月23日（土）13:30～16:00
 ファシリテーター：加留部貴行氏
 （九州大学特任准教授／特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会副会長
 ／特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会副代表理事）

～子育て支援活動を通じて 地域はどう変わったか？～

『ワールドカフェ』という方法により、ふり返りました。



参加者4人ずつ、3グループに分かれました。
 テーマに沿って全員が話します。各自気づいたことを、各グループの机上の模造紙に、自由にメモを残します。

1ラウンドの時間を決め（当日は20分としました）、時間が来たら「テーブルマスター」以外のメンバーは、他のテーブルへ移動します。移ったテーブルでいっしょになった方と、同じテーマについてまた語り合います。

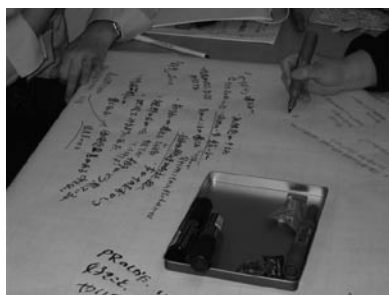


「テーブルマスター」は、ひとつのテーブルに居続け、新たにやってきた方に、そのテーブルでそれまで話されたことを伝える役割です。

最終ラウンドは、元のテーブルに戻ります。ほぼ全員と同じテーマについて濃く話し合ったこととなります。戻ったテーブルの模造紙には、たくさんのコメントや意見が書き込まれていてびっくり！まとめは、ポストイットにキーワードの書き出しをしました。



「あら～私と同じ考えだわ～」他のテーブルの模造紙を見て思うこともあります。そんな時は、自分のコメントを書き入れたり。反対意見もありです。記入は好きずき。



話して、書いて、話して、話して、書いて、…。
 「テーブルマスター」以外の人は、全テーブルを制覇します。





ファシリテーター加留部さんより

グループ・団体活動の趨勢とは???

～10年間継続の団体の会長らに聞いてわかったこと～

グループ・組織・団体活動を行うことは簡単ですが、維持することがとても大変です。

私も活動していて、「今日やめよう、明日やめよう」ということが山のようにあります。しんどかった時に、10年以上活動を続けている団体の会長さんや事務局長さんたちに、「いったい、いつごろ調子がよくて、調子が悪かったか。その理由は何か」を聞いたことがあります。

NPO・市民活動者はプラスから始めている

団体の立ち上げの最初は勢いよくいきます。ところが、あるときにスコーンと落ちて、大概の団体が消えていきます。そしてやっているうちに、それなりに、となります。団体には必ず浮き沈み、趨勢があるのです。子育てグループの皆さんのような、NPO・市民活動者は、必ずプラスからスタートし、ゼロからではないです。プラスとは？ですが、子育てグループにとっては、「子どもたちを何とかせにゃならん、放つとかれん。どげんかせにゃならん」という思いがプラスからスタートさせます。企業でいえば、創業者精神。中には、マイナスからスタートする団体もあります。したくないけど、誰かから（例えば、役所から）「しろ！」といわれてつくった団体です。

「想い」の引き継ぎが重要！それは「記録」・・・

ひとつのピークが団体にやって来ます。いろいろな意味で勢いのある時期、そしてその後、安定する時期が来ます。ここに差が出ます。安定期とピーク時の差、この差は、一番最初の「想い」の部分です。「想い」の部分が、安定期になると差として現れるそうです。

一番最初に団体を立ち上げる人とは（「第1世代」と呼びますが）、「想い」はあるけれどやり方がわからず、がむしゃらに走る人たちです。途中から入る人は、「第2世代」「第3世代」といわれ、やり方は先人たちが作っているの、その通りにやればいいが、「何のためにやっているのかわからない」のです。

その「想い」の部分を、引き継いでいくのが大変重要だそうです。先輩たちは、「記憶に頼るな、記録に頼れ」と言っていました。誰か古手の頭にある昔話だけではなく、いったい何が起こって、どういうことがあって、どういう状況だったのか、記録を残しておけということです。記録に残し、年に1回、みんなでうまくいったか、いかなかったか、という振り返りの場が「総会」です。先輩たちは、そこをちゃんとやろうと言っていました。

そして最初3年はうまくいく、とみなさん話していました。4～6年で、心配しなくても必ず落ちる、一度は必ずしんどい思いをする。ところが不思議なことに8年を超えると「いけるかな・・・」という気になるそうです。10年になると、ベテランの域に入り、人はそこそこいて、お金もそこそこあって、活動は頑張っていて、マスコミが時々取材にきて、役所から表彰しようかといわれ始めるのが、このタイミングだそうです。その勢いで15年はいくのだけれど、その後の5年間に種

まきをしないと、絶対20年は迎えられないということです。

浮き沈みの原因は「人」

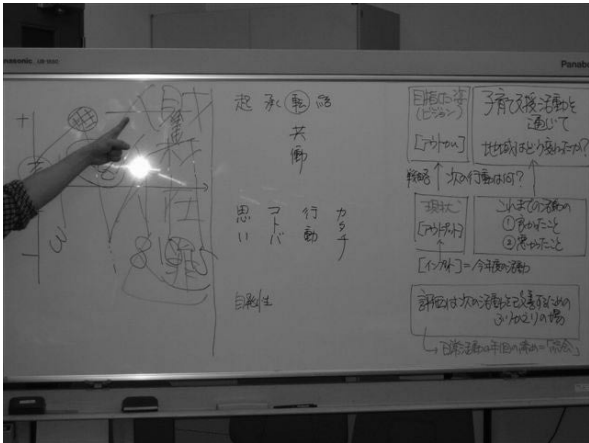
その浮き沈みの原因は、みな口をそろえて、お金でも場所でもなく、「人」だといいます。

<団体の勢いが落ちる3つの理由>

- 1) トップが替わって、代替わりをした
- 2) 中心を担っていた人物が抜けた
- 3) ケンカ別れをした（市民活動の場合ある意味ケンカ別れは健全で、元気のいい証拠ともいえる）

<団体の勢いがふっと浮きあがる3つの理由>

- 1) 「リーダー」をたてた、足を引っ張らなかった
- 2) 自分の団体だけの力だけでは足りないのので、他の団体の力を借りたり、連携したり、外に向かってメンバーを募ったり、ありとあらゆることをして、外部の資源を自分のところに持ちいれた
- 3) あれこれやりたいことはあったが、「続けること」を目的とした



「10人よれば2:6:2の話」はなぜか?・・・という、「関係性」なのです。「うちのこのメンバー、あまりしゃべらないのです。」と相談されることがありますが、「しゃべらない人だけを集めてグループを組みなさい」といいます。すると、しゃべり始めます。反対に、しゃべる人ばかりでグループを組むとしゃべれない人が出てきます。

人それぞれに得意不得意があり、人生のタイミングの中でできることとできないことがあります。特に子育て支援の場面では、「人生の中のタイミング」が如実に現れやすい。年輩のおかあちゃんたちができやす

4種類の人材

人財：「余人をもって代えがたし」といわれるほどの宝物の人

人材：素材としてありがたい人

人在：いてくれてありがたいという存在感あふれる人

人罪：「あなたがいるからだめになる」という人（各団体に必ず2～3名いる！）

10人よれば2:6:2の話

すごいのが2人、とんでもないのが2人、まあまあが6人。たとえば、子どもたちをキャンプに連れて行き、「カレーつくるよ」といってちゃんとジャガイモをむきはじめる子どもが2人、あそんでやらない子どもが2人、どうしていいかわからないでおろおろしている子どもが6人と相場が決まっている。絶対やらない子どもをきると、不思議なことに6人のなかからサボるやつがでてくる。逆もしかり！リーダー2名がぬけると、不思議なことに6名のなかから、リーダーがでてくる。

くなるのは、そのような時間が発生しやすい年代であって、目の前の子どもと向き合っている人は現場、戦場です。そうした人生のタイミングの差があるという気がします。

「共有」「共感」「共働」「共創」「共育」「共生」「共同」「共栄」「共存」・・・・・・・・

最近役所では「協働しよう、協働しよう」といい、「協働」と書きます。私は最近、「協」の字を共働きの「共」と書いています。ところが役所の言う「協働」は、起承転結の「転」の部分を一いきなり語り始めるようなものです。本来はやはり段取りがあります。

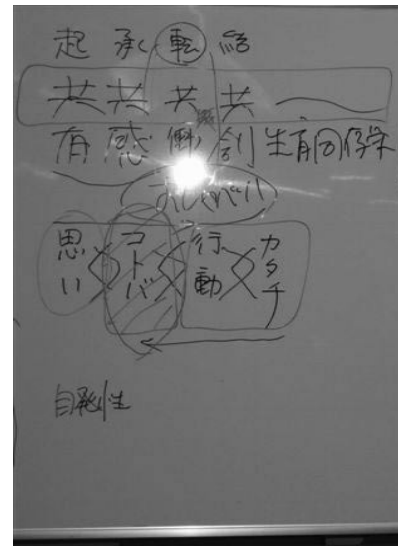
一番最初に、われわれがすべきは「共有」です。平たくいえば「自己紹介」。お互いのことを知り合う。どんな団体があつて、どんな地域で、どんな事が行なわれていて、何があつて、何がないのか、を知り合うこと。行政の情報公開もNPO法人の情報公開もそのひとつ。今日の意見交換もそのひとつ。お互いに「共有」することです。

共有が始まったら、「おしゃべり」が始まり、「あーそうそう、私も一緒」というところで「共感」が生まれます。「共感」は、人と人とを結びつける連結器です。共感性が高まれば高まるほど、運動性を帯びます。地域で「〇〇運動」とつけるのは、共感性を高めんがためにやっていることが多いです。

ただ、ここまでの段取りが面倒くさい。成果やスピードを求めすぎると「共有」「共感」のところを端折ってしまうのです。それで「共働」ができるかという、できるわけがない。

「共」の字で作る言葉には、「共創」「共育」「共生」「共同」「共栄」「共存」と、山のようにあります。「共に」は時代のキーワードです。言葉遊びのようですが、「共」を使うとバランスがよく、「協」の字はお願いする側の都合が入ってくるのであやしいので、個人的には使っていません。ところで「共働」（きょうどう）は、「共働き」（ともばたらき）と読むと何でもない言葉です。これは、おとうちゃんとおかあちゃんが、「今日、子どもをどうやって送り迎えする？」「今日、夜どげんなるとや？」「今日は部長からさそわれておるけん、飲み会ででていけん。」「しょがない、じゃあ俺がいつてやる」と共働し、子どもが無事帰ってくることになる。

実は、このように毎日やっていることなのです。



「思い」「コトバ」「行動」「カタチ」～私たちの勝負は「コトバ」！対話が大切～

「港区地域こぞって子育て懇談会」の「こぞって」という言葉、こぞってやりましょうという言葉は、とてもいいです。「みんなでやりましょう」という趣旨がとても大事。だから一番大切なのは、今皆さんがやっている「おしゃべり」です。これが一番の原動力。ただ、私たちがコミュニケーションする時に、「思い」と「コトバ」と「行動」と「カタチ」があり、願わくば、「思い」が「コトバ」となって、「コトバ」が「行動」に結びつき、よい「カタチ」になってくれればいい。ですが、実際には思うほど、「コトバ」にならず、「行動」に結びつかず、ご破算になりましたという話が圧倒的に多いのです。

「思い」は見えません。夫婦間の「言わにゃわからん」です。「行動」「カタチ」は結果です。多分、私たちが勝負できるのは、「コトバ」の部分、「どうやってコトバをかけるのか」「どうやっておしゃべりするのか」という一点です。

役所がありがちですが、「カタチ」から入る。現場の人間は、「一言いわせろ」というところから入ります。矢印のスタートラインが違う。でも、どこでぶつかるか、出会えるかという、「コトバ」の部分です。対話をすることは大切です。非常に重要です。官と民の間であろうが、民と民の間であろうが、対話が非常に重要だと思います。

自発性は活動を支える要素

自発性は、われわれの活動を支えてくれる要素です。ボランティアの語源「ボランタス」の意味も、「自発的にする」です。奉仕活動と訳す方もいますが、「たてまつり つかえて我慢してやる」のではなく、放つとかれんと思って、我慢できずにやる活動が、「ボランティア」「ボランタリー」な自発性のある活動です。自発性は、「やりたいことはやる。やりたくないことはやらない。」「いわれなくてもするけど、いわれてもしない。」決めるのは自分自身であって、「相手さんがいるから、勝手なことをやっちゃだめよ」はありますが、基本的には自分で決めることです。

自発性を誘発するのも自発性です。活動に疲れる時もありますが、そんな時に自発性を励ますのも自発性です。「みんな“こぞって”やってるから、私もがんばろうかな。」「自分のところの団体、ちょっと具合が悪いけど、あその団体ががんばっているから、がんばってみようかな。」と、誘発されたり励まされたりするのもお互いの自発性です。

決してひとりの活動ではない～最終的には社会のどこかを変えていくかもしれない～

今年 2008 年 12 月 1 日、特定非営利活動促進法（NPO法）が施行されて満 10 年です。もともと NPO法は、地域のいろいろな活動者たちが、国会議員に働きかけ議員立法としてできました。最初に「市民活動促進法」という名称で国会に提案され、衆議院を通過し、参議院で頭の固いオヤジがちょっと具合がわるく、特定非営利活動促進法と改称されたのです。

NPO法が今年で満 10 年になることを、ぜひ心の隅においてください。みなさんの目の前の活動は、子どもたちや地域のおかあちゃんたちを助けていくことですが、今や「子ども庁」を作ろう、「こども園」を作ろうというくらい政策が変わろうとしています。何よりも現場の動きが繋がったからです。ボランタリーなひとりの活動でも、多くの人繋がれば、「私の問題」が「われわれの問題」になり、公益性をもち、公益性があるから、公平性を担保する行政が動き始め、仕組みが変わったり法律ができたり、いろいろな施策が打たれたり、お金が配分されてきたり等の変化が生まれます（われわれの言葉では「グーからパーへ」という言い方をします）。

みなさんの活動は、決してひとりの活動ではないのです。繋がっていけば、われわれみんなの活動になるのです。ボランタリーな活動やNPOの活動は、たとえ個人であろうが組織であろうが、最終的には社会のどこかを変えていくかもしれない可能性を秘めています。10年前、15年前、20年前は、これほどの子育て支援はあったでしょうか？なかったと思います。今、私たちはいろいろな意味で、時代の佳境にいるのです。

